

# 本県の公立学校の状況について（概要版）

## 1 不登校について

	小学校	中学校	高等学校
平成28年度	245人	708人	402人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	5.3人	29.5人	17.4人
平成29年度	218人	704人	419人
1,000人当たりの不登校児童生徒数	4.8人	30.8人	18.6人
<b>平成30年度</b>	<b>262人</b>	<b>751人</b>	<b>397人</b>
1,000人当たりの不登校児童生徒数	5.8人	34.2人	18.4人
<b>増減（29年度比）</b>	<b>+44人</b>	<b>+47人</b>	<b>-22人</b>

### ○小学校で、不登校児童数が増加

- ・全国的に不登校児童数が増加する中、本県の不登校児童数は減少してきたが、平成30年度の1,000人当たりの不登校児童数は、平成29年度の4.8人から5.8人へ増加した。
- ・主に中学年で、新たに不登校になる児童が増加した。

### ○中学校で、不登校生徒数が増加

- ・全国的に不登校生徒数が増加する中、平成29年度は平成28年度の状況を維持してきたが、平成30年度の1,000人当たりの不登校生徒数は、平成29年度の30.8人から34.2人へ増加した。
- ・前年度から不登校状態が継続している生徒数はほぼ横ばいであるが、新たに不登校になる生徒が増加した。

### ○高等学校で、不登校生徒数がやや減少

- ・全国的に不登校生徒数が増加する中、平成30年度の1,000人当たりの不登校生徒数は、平成29年度の18.6人から18.4人へ減少した。

## 2 いじめについて

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
平成28年度	3,305件	388件	131件	8件
1,000人当たりの認知件数	71.4件	16.1件	5.3件	5.8件
平成29年度	3,875件	288件	127件	10件
1,000人当たりの認知件数	84.8件	12.6件	5.3件	7.2件
<b>平成30年度</b>	<b>5,329件</b>	<b>377件</b>	<b>118件</b>	<b>10件</b>
1,000人当たりの認知件数	117.4件	17.2件	5.1件	7.1件
<b>増減（29年度比）</b>	<b>+1,454件</b>	<b>+89件</b>	<b>-9件</b>	<b>±0件</b>

### ○小学校で、いじめの認知件数が増加

- ・いじめアンケート後の面談等で、小さな変化も見逃さず、きめ細かく児童の実態を把握したことにより、認知件数が増加した。
- ・特に低学年のいじめの認知件数の増加が大きい。  
 小学1年生 726件（H28年度）→938件（H29年度）→1,126件（H30年度）  
 小学2年生 705件（H28年度）→901件（H29年度）→1,061件（H30年度）

### ○いじめ解消率（国・公・私立学校）が2年連続1位

- ・各学校での「いじめ問題対応マニュアル」の活用の徹底が未然防止につながった。

### 3 中途退学について

	高等学校	全日制	定時制	通信制
平成28年度	313人	184人	73人	56人
中途退学率	1.3%	0.8%	8.1%	4.0%
平成29年度	396人	192人	94人	110人
中途退学率	1.6%	0.9%	10.5%	6.8%
<b>平成30年度</b>	<b>317人</b>	<b>217人</b>	<b>70人</b>	<b>30人</b>
中途退学率	1.4%	1.0%	9.0%	2.1%
<b>増減(29年度比)</b>	<b>-79人</b>	<b>+25人</b>	<b>-24人</b>	<b>-80人</b>

#### ○全日制で増加、定時制・通信制で減少

- ・全日制では、平成28年度から増加している。
- ・平成29年度は、紀の川高等学校の閉校により、通信制で50人以上の生徒が転学せずに退学したため大幅に増加したが、平成30年度は、定時制・通信制ともに減少した。

### 4 暴力行為について

小学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成28年度	121件	25件	85件	2件	9件
1,000人当たりの発生件数	2.6件	0.5件	1.8件	0.04件	0.2件
平成29年度	142件	29件	88件	5件	20件
1,000人当たりの発生件数	3.1件	0.6件	1.9件	0.1件	0.4件
<b>平成30年度</b>	<b>117件</b>	<b>21件</b>	<b>85件</b>	<b>3件</b>	<b>8件</b>
1,000人当たりの発生件数	2.6件	0.5件	1.9件	0.1件	0.2件
<b>増減(29年度比)</b>	<b>-25件</b>	<b>-8件</b>	<b>-3件</b>	<b>-2件</b>	<b>-12件</b>

中学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成28年度	363件	34件	218件	26件	85件
1,000人当たりの発生件数	15.1件	1.4件	9.1件	1.1件	3.5件
平成29年度	351件	36件	191件	11件	113件
1,000人当たりの発生件数	15.3件	1.6件	8.3件	0.5件	4.9件
<b>平成30年度</b>	<b>393件</b>	<b>62件</b>	<b>219件</b>	<b>8件</b>	<b>104件</b>
1,000人当たりの発生件数	17.9件	2.8件	10.0件	0.4件	4.7件
<b>増減(29年度比)</b>	<b>+42件</b>	<b>+26件</b>	<b>+28件</b>	<b>-3件</b>	<b>-9件</b>

高等学校	暴力行為	暴力行為の内訳			
		対教師暴力	生徒間暴力	対人暴力	器物破損
平成28年度	70件	7件	56件	3件	4件
1,000人当たりの発生件数	2.8件	0.3件	2.3件	0.1件	0.2件
平成29年度	72件	12件	45件	7件	8件
1,000人当たりの発生件数	3.0件	0.5件	1.9件	0.3件	0.3件
<b>平成30年度</b>	<b>52件</b>	<b>7件</b>	<b>43件</b>	<b>0件</b>	<b>2件</b>
1,000人当たりの発生件数	2.3件	0.3件	1.9件	0件	0.1件
<b>増減(29年度比)</b>	<b>-20件</b>	<b>-5件</b>	<b>-2件</b>	<b>-7件</b>	<b>-6件</b>

#### ○小学校で、発生件数が減少

- ・各学校において、情報共有と適切な対応が未然防止につながり、発生件数が減少した。

#### ○中学校で、発生件数が増加

- ・各学校において、軽微な事案にも組織的に対応し、個々の生徒の状況を丁寧に見立てたことにより、暴力行為の件数が増加した。(特定の生徒が感情をコントロールできず、繰り返し暴力行為を行った件数も含まれる。)

#### ○高等学校で、発生件数が減少

- ・各学校において、暴力行為に至るまでの教職員の気付きと、その後の適切な対応が未然防止につながり、発生件数が減少した。